

**探究的な学習の在り方に関する研究推進地域**

**連携中学校区：福山市立一ツ橋中学校区**

**連携地域を構成する学校**

学校名	学級数	児童生徒数
福山市立一ツ橋中学校	12	283
福山市立引野小学校	16	260
福山市立長浜小学校	8	158

(R4.11.1現在)

**1 研究の概要**

**(1) 研究テーマ及び研究のねらい**

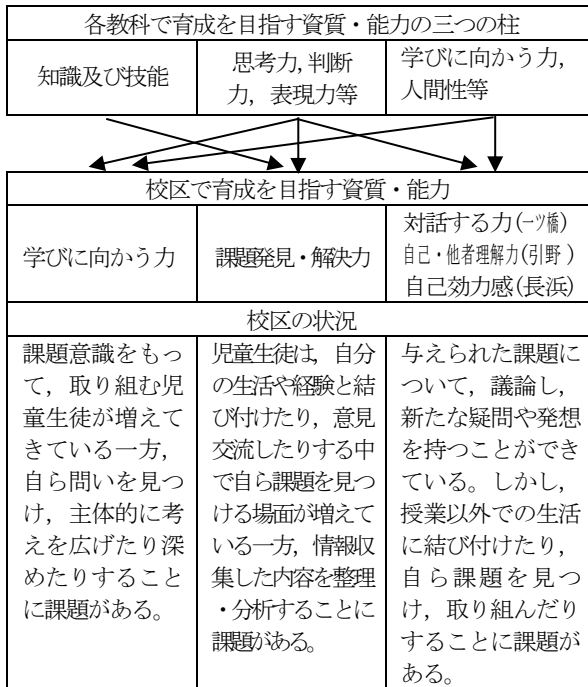
○テーマ

主体的に問いを見出し、自己探究を通して、資質・能力の向上を図る ～探究は自分の生活の中に～

○ねらい

実社会や実生活から課題を自分事として捉え、本やインターネット及び実際に体験する中で情報収集を行い、課題発見・解決力の育成を目指す。

**(2) 資質・能力の設定について**



**(3) 取組について**

**【探究的な学習の充実に向けての取組】**

《校区》

○共通して取り組む内容

- ・ 探究サイクルを意識した単元開発
- ・ 教師のファシリテート
- ・ 評価基準（ルーブリック）の作成

○キーワード

- ・ 「子どもたちの声」  
児童生徒の声から課題設定や情報収集の方法を検討する

- ・ 「机からの脱却」  
体験や実物に触れ、探究のきっかけとする
- ・ 「本物に触れる」  
自分自身の課題に迫るものに触れる

《一ツ橋中学校 3年》

- ・ 今の自分と将来の自分を比較したときの差から、今必要なことは何か、自分事としての問いを立てる。
- ・ 本やインターネットに加え、外部の方と連携して情報収集を行い、自己実現を図るための情報を整理・分析する。

《引野小学校 6年》

- ・ 引野町の未来について課題を出し、人口の減少を止めるために、引野町の魅力について生活している人にインタビューするなどして情報収集する。
- ・ インスタグラムやユーチューブ、ホームページを活用して、引野町の魅力を発信する。

《長浜小学校 4年》

- ・ リサイクル活動の目的を児童と再度見直し、自らの生活や町の状況について調べ、課題を発見する探究学習を行う。
- ・ 課題の設定、解決のための取組、その活動を振り返り、新たな課題を設定する探究サイクルを進める。

**【小中連携の取組】**

- ・ Google Classroomの活用  
端末（デジタル）で資料のやりとりやミーティングを開催し、校区内で連携を活発にする。
- ・ 全職員による生活科・総合的な学習の時間の授業参観  
毎学期、校区一斉研修を計画し、授業を見る視点を決め、全教職員で参観後協議を行い、自らの授業や意識を振り返る。
- ・ 小学校の授業参観と意見交流  
研究推進リーダーが毎月1回以上小学校の授業を参観し、授業の流れや、授業者の関わり、ルーブリック等について協議する。

**【資質・能力の評価】**

各教科で育成を目指す資質・能力の三つの柱の中で、校区で重点項目を決め、評価のためのルーブリックを作成する。

《重点項目》

- ・ 知識及び技能  
③「探究的な学習のよさの理解」
- ・ 思考力, 判断力, 表現力等  
①「課題の設定」, ③「整理・分析」
- ・ 学びに向かう力, 人間性等  
②「主体性・協働性」(「対話する力」一ツ橋)  
①「自己理解・他者理解」(「自己・他者理解力」引野)  
①「自己理解・他者理解」(「自己効力感」長浜)

**2 実践事例**

《一ツ橋中学校》

単元名：『自己実現～広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力～』(3年)

内容：自己実現のために自分に何が必要なのかを考え、情報を収集、整理・分析し、プレゼンする。

○自分事としての課題設定

広島県の15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力として提示された「自己を認識する力」、「自分の人生を選択する力」、「表現する力」の育成を目指している。

生徒は現在の姿を振り返り、目指す姿の実現に向けて必要なものは何か考えた。教職員は、個別に面談を行い、進捗状況を確認したり、「次どうしようと考えている？」と生徒に問い返したりし、一人一人が自分事として課題を持つことができるようにした。

#### ○外部との連携

生徒が、設定した課題に向けて情報収集する中で、「実際に働いている人に話を聞きたい」という思いになり、自らでアポイントをとり、看護師、警察官、プロバスケットボール選手、カープ球団等にインタ



〈オンラインでインタビュー〉

ビューする機会をもった。実際に話を聞くことを通して、新しい視点を持ち、具体的に考えることができた。

#### 《引野小学校》

単元名：『引野の未来を考えよう！』（6年）

内容：引野小学校の児童数の変化の推移から、町の魅力を発信し、住みたいと思われる町を目指す。

#### ○課題設定

引野小学校の児童数の変化をグラフで提示し、そこから何を思うのか、学級で話し合うことからスタートした。「このままでは、引野町の人口が減り続け、引野町が無くなってしまわないのでは？」と児童から意見が出た。また、児童「町の魅力についてあまり知らない」という声から、「引野町の魅力は何か」を全体の課題として調べることとした。

#### ○調査及び発信

引野町の魅力を知るため、引野町で働いている方にインタビューしたり、自分達が生活している学校の魅力について意見を出し合ったりして、まとめた。



〈お店でインタビュー〉

情報管理に配慮しながら、InstagramやYouTube、ホームページを活用し、引野町の魅力を発信している。

児童から、「より多くの人に見てもらうためにはどうしたら良いだろうか」という新たな課題が生まれた。

#### 《長浜小学校》

単元名：『みんなの町を守るために～1人1人ができること～』（4年）

内容：例年実施するリサイクル活動の目的を見直し、自分事としての課題を持ち、できることを考える。

#### ○課題設定

長浜小学校区の問題へ目を向けるために、実際に歩いてみて汚れているところがないか町の様子を確かめた。普段意識していないが、注意深く観察することで、多くの場所が汚れていることを見つけた。



〈実際に町の様子を観察〉

「自分達の学校も意識して見ると汚れているかも。」と児童が課題意識を持ち、まずは学校をきれいにしようとして課題を設定した。

#### ○全校での清掃活動を企画

校内をきれいにしようとして全校での清掃活動を立案し、

各学級を訪れ参加の協力を求め、楽しく取り組める工夫をするなど取り組んだ。

活動を振り返り、地域をきれいにするためにできることを話し合い、新たな課題を持つことができた。

### 3 研究の成果と課題等

実社会や実生活から課題を自分事として捉え解決しようと行動した児童生徒の変容を見取るため、アンケートを実施した。（1回目：6月，2回目12～1月）

質問：自分が見つけた課題を、解決しようと思いましたか。

《一ツ橋中》 (%)

	1年	2年	3年
1回目	90.5	91.5	97.4
2回目	93.8	80.0	92.9
差	+3.3	-11.5	-4.5

《引野小》 (%)

	3年	4年	5年	6年
1回目	72.0	93.6	92.4	75.0
2回目	88.6	90.9	100	92.8
差	+16.6	-2.7	+7.6	+17.8

《長浜小》 (%)

	3年	4年	5年	6年
1回目	89.5	95.2	100	82.3
2回目	94.7	90.0	100	86.3
差	+5.2	-5.2	0	+4.0

#### (1) 成果

- どの学校も、情報収集を本やインターネットからだけでなく、外部の方や、直接体験することで、考えがより深まる場面が増えた。

(アンケートから)

- 一ツ橋中は、1学期単元のスタートで、自分事としての課題を持ち、課題解決に向けて意欲的に取り組んだ。
- 引野小は、児童のつぶやきを大切にし、関心や疑問から単元を組み直しながら活動を進めることで、児童は、自分事としての課題を持ち、情報収集や、まとめ・表現に取り組むことができた。
- 長浜小では、肯定的回答が減少した学年もあるが、児童は、体験や活動から生まれた疑問を基に、学級で取組を決め、自分事として解決するなど減少した学年もあるが、高い意識で取り組むことができた。

#### (2) 課題

学年によっては、常に課題意識を持って取り組めていない状況がある。

校区で目指す資質・能力と、単元を通して目指す児童生徒の資質・能力のつながりが、具体的でない部分がある。

振り返りの様子から、児童生徒自身が、どのような力が伸びているのか実感できていない。

#### (3) 今後の改善方策等

単元を通して目指す姿の具体を設定し、つぶやきや取り組む姿、学習記録、自己評価、ルーブリックでの評価、面談など様々な方法で児童生徒の学びの過程を見取り、個別の支援につなげる。

そのために、授業者の児童生徒との関わり方、評価規準に対するルーブリックの内容や、評価するタイミング、児童生徒へのフィードバックの方法を見直す必要がある。